

## 長期の火災保険に加入した場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**新人さん：**先日の火災保険には加入したのですか？

**先輩：**ああ、ちょうど更新の時期だったから、今回は3年契約にしてみたいだね。

**新人さん：**3年分の保険料を支払ったってことですね。

**先輩：**そうだよ。契約期間が長くなると保険料の割引を受けられる率が高くなるからね。

### ●解説

「長期前払費用」とは、前払費用（一定の契約に従ってサービスの提供を受ける場合、まだ提供されていないサービスに対して、すでに支払われた対価のこと）のうち、決算日の翌日から起算して1年を超えて費用化が見込まれるものを処理する勘定科目です。具体的には、複

数年契約の保険料や借入金の保証料やリース料等です。また、不動産の賃貸借契約をした場合の権利金等のうち返還されない部分は、会計上、「差入保証金」でなく「長期前払費用」として処理し、賃借期間にわたって償却します（第92回参照）。

ほかにも、税務上の繰延資産のうち、公共的施設の負担金、ノウハウの頭金、同業者団体等の加入金などは、「長期前払費用」の勘定科目で処理します。これは、会計上、繰延資産を限定列挙しているためです。会計上、税務上の繰延資産の償却期間は定められていないため、実態に応じて処理します。ただし、特に不合理な理由がない場合は、申告調整が必要になるため、税務上で各々に定められる償却期間で償却するのが一般的です。 ㊦

### ケース 1

#### 3年間の火災保険に加入した場合

・ **契約時：**期首に3年分の火災保険料300,000円を一括して、普通預金口座から振り込んだ（振込手数料440円）。

<b>【借方】</b>	長期前払費用	300,000	<b>【貸方】</b>	普通預金	300,440
	支払手数料	400			
	仮払消費税等	40			

・ **決算時：**長期前払費用に計上していた火災保険料の当期分100,000円と翌期分100,000円を振替処理した。

<b>【借方】</b>	支払保険料	100,000	<b>【貸方】</b>	長期前払費用	200,000
	前払費用	100,000			

### ケース 2

#### 同業者団体に加入した場合

・ **契約時：**期首に同業者団体に加入金300,000円を当座預金口座から支払った（振込手数料440円）。

<b>【借方】</b>	長期前払費用	300,000	<b>【貸方】</b>	当座預金	300,440
	支払手数料	400			
	仮払消費税等	40			

・ **決算時：**長期前払費用を税務上の償却期間5年で償却した。

<b>【借方】</b>	長期前払費用償却	60,000	<b>【貸方】</b>	長期前払費用	60,000
-------------	----------	--------	-------------	--------	--------